



防災カレー作り備え

自作の備蓄米、ビニール袋で炊飯

南さつま・小湊小で食育

南さつま市の小湊小学校は、地震や津波、台風といった災害への備えに力を入れている。3、4年生は災害時の炊き出しを想定した防災カレー作り初めて挑戦。自分たちで栽培し備蓄していた米をビニール袋で炊くなど工夫した。また土曜授業の日には集団下校し防災意識を高めている。

同校は海が近い港町であり、海拔約3・5メートル。津波の被害は近年ないが、昨夏は台風で停電が長く続き、1月には同市で震度4が記録されるなど危機意識が高まっている。防災カレー作りは1月30日にあり、市農林振興課の藤田孝子さん、飯島ちはるさん、JA南さつまの西尾あかねさんが食育を兼ね指導した。

児童5人は、湯飲み1杯の米を一人ずつ耐熱ビニール袋に入れ、市の備蓄水を投入。災害時は水が貴重なため米は研がなかった。ジャガイモやニンジンが皮がついたままカット、砕いたルウや缶詰のツナとともに袋に入れた。米、カレーそれぞれ鍋で20分湯せん。

土曜授業の2月8日には全校児童20人がホールに集合、地区に分かれ下校した。小山俊明校長は「学んだことや体験が記憶となりいざというときに役立てば」と期待した。

【問1】 南さつま市の小湊小学校の3、4年生は、どんなことを想定して防災カレー作りに挑戦しましたか。

()を想定した防災カレー作りに初めて挑戦。

【問2】 南さつま市の小湊小学校では、土曜授業の日、どのようなことをして防災意識を高めていますか。

土曜授業の日には()し防災意識を高めている。

【問3】 南さつま市の小湊小学校の防災カレー作りの様子を書きましょう。

・()の米を一人ずつ耐熱()に入れ、市の(備蓄水)を投入。

・災害時は()が貴重なため()は研がなかった。

・ジャガイモやニンジンは()がついたままカット、砕いたルウや缶詰のツナとともに袋に入れた。米、カレーそれぞれ鍋で20分湯せん。

・()袋のご飯にカレーをかけて食べた。

【書きましょう】 この記事を読んだ感想を書きましょう。

2025年2月12日付15面

むずかしい漢字とことば

小湊(こ・みなと) 地震(じ・しん) 津波(つ・なみ) 災害(さい・がい) 備(そな)え 炊(た)き出(だ)し＝災害にあった人々に、大量に調理して配ること

防災(ぼう・さい) 挑戦(ちょう・せん) 栽培(さい・ばい) 備蓄(び・ちく)＝必要な物をたくわえ、保管しておくこと 袋(ふくろ) 授業(じゅ・ぎょう) 集団(しゅう・だん)

意識(い・しき) 海拔(かい・ぱつ)＝海面からの陸地や山の高さ。標高(ひょう・こう) 被害(ひ・がい) 停電(てい・でん) 危機(き・き)

振興(しん・こう)＝ものごとをさかんにすること 兼(か)ね 指導(し・どう) 杯(はい、ここでは「ぱい」) 耐熱(たい・ねつ) 貴重(き・ちよう) 研(と)がなかった

砕(くだ)いた 缶詰(かん・づめ) 鍋(なべ) 洗(あら)い物(もの)

©南日本新聞社 教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

